

# 上ケ原用水路のトンボ

田 中 稔

犬の散歩がてらに関西学院大学附近（西宮市上ケ原一番町）でトンボ採集をしているが、ここには上ケ原用水路（看板には1648年～1651年、仁川より関西学院裏まで引いた水を分水樋により上ケ原新田、門戸、神呪、3村に分けた。とあり西宮市指定史跡となっている。）があり、その環境上サナエトンボ類がほとんどである。本科は羽化殻の採集が容易で、大体の発生数（雨に流されることもあるが）、発生ピーク、が分かりやすいので以下ノートより抜替してみた。

カワトンボ *Mnais strigata* SELYS

少ない。透明型である。羽化殻は未発見。

ヤマサナエ *Gomphus melanops* SELYS

16 V 1982 羽化殻9

23 V 1982 羽化殻15

15 V 1983 羽化殻6

5月15日頃より羽化しはじめ、5月20日位がピークとなる。羽化殻の位置は、水面スレスレから30cm位まで。本種は羽化殻成虫共に、仁川キャンプ場附近の用水路に多い。

キイロサナエ *Gomphus pryri* SELYS

23 V 1982 羽化殻多数

12 V 1982 羽化殻41

19 V 1982 羽化殻6

5月20日頃より羽化しはじめ、5月下旬がピークとなる。羽化殻は水面スレスレより30cmまでの所に多い。ヤマサナエの羽化殻は本種より、太く、腹部第9節が短いので区別できる。1982年5月23日は、田植えの準備のため用水路の溝さらえをしていた。用水路には水がなく、近所の子供達がザリガニ、ドンコ採りに熱中しており、筆者も犬と子供を連れてザリガニ、ドンコ採り兼、羽化殻採りに来ていたため、用水路は子供、大人、犬で大賑いだった。キイロサナエの羽化殻は、用水路に多数ついていたが、9時頃でも羽化中の個体があり、水がないため溝底面の石、水草の上で羽化していた。道路上に積み上げられた用水路の砂、ドロ、ゴミには羽化失敗の成虫がヨタヨタし、若齢幼虫、終齢幼虫がモゾモゾと動き廻り、子供達に踏まれた幼虫があったりして毎年キイロサナエの羽化期に用水路の溝さらえが重なるので「キイロサナエ受難のシーズン」となり胸が痛む。しかし本種を始めて見てから4年になるが、発生個体数の変動はないようである。産卵は2回観察したが（1980年6月30日、1982年7月4日）単独で飛翔しながら（ほとんど滞空）流水上の50cm位より、やや尾端を曲げて水面に付ける事をせず、パラパラと産卵していた。当地では、ヤマサナエより本種の方が

下流に生息する様である。

ダビドサナエ *Davidius nanus* SELYS

7 VI 1980 羽化殻 1

本種は仁川ピクニックセンター附近に多い、おそらく流されて来たものと思う。

オジロサナエ *Stylogomphus suzukii* OGUMA

26 VI 1982 羽化殻 5

4 VII 1982 羽化殻 1

11 VII 1982 羽化殻 2

水面スレスレで見られ、小型であるが白っぽく見えるので発見しやすい。仁川の堰堤の淵で羽化殻、生虫を見るが、これが本来の姿であろう。

オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus* OGUMA

19 VI 1982 羽化殻 7

26 VI 1982 羽化殻 22

4 VII 1982 羽化殻 4

11 VII 1982 羽化殻 3

羽化殻は、体の半分が水につかっている。毎年用水路の限られた場所で見られ、成虫は甲山森林公園で1980年7月13日に1♂を採集したのみ。

コオニヤンマ *Sieboldius albardae* SELYS

19 VI 1982 羽化殻 4

26 VI 1982 羽化殻 1

水面上50cm位の所に見られる。仁川では石の上に多く、成虫も8月上旬に多い。

オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* SELYS

19 VI 1982 羽化殻 5

26 VI 1982 羽化殻 3

水面より遠く離れ、とんでもない所についている事が多い。普通に見られる。

ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* SELYS

13 VII 1980 羽化殻 4

用水路より1m以内の草、枝に発見出来るが、採集しにくい。しかし当地においては、ヤンマ科の中で一番多い種である。

コンボソヤンマ *Boyeria maclachlani* SELYS

6 VII 1980 羽化殻 4

27 VII 1980 羽化殻 3

用水路にはえた草で発見したもので、羽化殻の位置はミルヤンマと同じである。成虫は仁川に多い。

コヤマトンボ *Macromia amphigena amphigena* SELYS

30 Ⅶ 1980 羽化殻 12

19 Ⅶ 1982 羽化殻 6

橋の天井面など暗い所で、羽化殻が見られる。普通に見られる。

オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania* SELYS

6 Ⅶ 1982 羽化殻 2

12 Ⅶ 1982 羽化殻 12

19 Ⅶ 1982 羽化殻 6

本種は流水、止水共に生息しており、羽化殻は水面上 20 cm~50 cm 位の所に最も多く、当地においては最も多いトンボである。

#### 参 考 文 献

- 1) 石田昇三(1969) 原色日本昆虫生態図鑑Ⅱトンボ編 保育社
- 2) 松本健嗣(1982) 神戸市周辺の蜻蛉目、きべりはむし(第10巻第2号): 2-8.

## 西宮市内におけるヒメコブヤハズ カミキリの採集記録

新 家 勝

県下におけるヒメコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber gibber* Bates の分布については本誌第9巻第2号に紹介されているが、採集記録は意外に少ないようである。少し古い記録であるが、西宮市内における筆者の採集例を報告させていただく。

Ⅸ. 23. 1974 西宮市鷺林寺、標本は筆者保管